

1 新たに策定した「スクール・ポリシー」にしたがい、3年間の教育活動を通じて、本校の校訓である「自啓自発～自ら学び、自ら鍛え、すすんで自己を高める～」を体現できる生徒を育てる。

2 学習指導方法の工夫改善に努め、生徒の学力の伸長を図る。

具体的には次の点に留意して学習指導に当たる。

- ・「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」を意識した学習活動を実施し、学力の定着を図る。
- ・生徒の学力を把握し、指導計画を立てる。
- ・新教育課程表に基づいた学習指導計画の作成を進め、新しい評価法を確立し、その妥当性・信頼性を高めるとともに、指導と評価の一体化を図る。
- ・生徒個別端末(BYOD)及び配備されるタブレット等を利用し、ICTを活用した学習支援を進める。

3 望ましい勤労観、職業観を育成し、生徒の可能性を引き出した進路目標を設定させ、その実現に努める。

具体的には次の点に留意して進路指導に当たる。

- ・3年間を見通した効果的な進路計画を策定し、実行する。
- ・入試情報の把握と生徒の学力分析を適切に行い、生徒の指導に反映させる。
- ・キャリア教育の充実を図る。

4 生徒に責任と義務を自覚させるとともに、規範意識を高め、命を重んじ、人権に配慮した生徒指導を行う。

具体的には次の点に留意して生徒指導に当たる。

- ・端正な身だしなみで学校生活を送れるように全教職員で指導に当たる。
- ・あいさつの励行、時間厳守、交通安全など、規律ある生活習慣を身につけさせる。
- ・命と人権の大切さを伝えるとともに、社会における各人の役割の自覚を促す。
- ・道徳教育を推進し、公共心・思いやりの心を育成する。

5 様々な場面を通して生徒の状況を把握し、いじめ等の早期発見、撲滅に努める。

6 心身に問題を抱える生徒を的確に把握し、教育相談を適切に機能させ、個々の生徒に適応した指導を図る。また、多様化する生徒の対応に向けて教職員の研修に努める。

7 協働の精神をもって職務に当たる。

- ・教員間のコミュニケーションを密にし、生徒情報の共有化を図る。
- ・分掌、学年を超えて、教職員全体が助け合える雰囲気をつくる。
- ・チームワークをもって生徒指導に当たる。

8 次のような取り組みを積極的に行い、教育活動を充実させるとともに、多忙化の解消に努める。

- ・会議の精選、時間短縮を図る。
- ・書類や職務等で簡素化できるものについては、改善を図る。
- ・教員間の協力体制を強化し、作業時間等の短縮を図る。
- ・行事を点検し、統合や廃止、開催時期等について検討する。

9 庶務部との連携を密にし、予算の有効な執行と施設設備の充実、補修に当たる。

- ・県費、私費の適切な運用を図る。

10 生徒及び教職員の感染症予防対策に万全を期す。